

「144,000 人のユダヤ人」

黙 7 : 1～8

1. はじめに

(1) 6 章で、巻き物の封印が解かれる。最初の 6 つの封印。

- ①ここから大患難時代が始まる。
- ②大患難時代でも、人々は救われるのか。
- ③答えは、「イエス」である。

(2) 7 章の内容

①6 章 17 節の質問

Rev 6:17 御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

*その意味は、誰がメシア的王国（千年王国）に入れるだろうかということ。

②7 章は、この質問への回答である。

*誰が伝道するのか。

*誰が救われるのか。

③7 章は、2 つのグループに焦点を合わせている。

*7 章 1 節～8 節 144,000 人のユダヤ人（伝道する人たち）

・彼らは、大患難時代におけるイスラエルの残れる者たちである。

*7 章 9 節～17 節 大患難時代の聖徒たち（救われる人たち）

・彼らは、大患難時代に殉教の死を遂げる諸国からの信者たちである。

④7 章は、物語が進展しているのではなく、挿入句である。

*大患難時代の最初の 3 年半に起こることである。

2. アウトライン

- (1) 4 人の御使いの幻（1～3 節）
- (2) 144,000 人のユダヤ人（4 節）
- (3) 12 部族（5～8 節）

3. 結論：

- (1) 大患難時代における聖霊の働き
- (2) ご自身の民に対する神の守り

144,000 人のユダヤ人について学ぶ。

I. 4 人の御使いの幻（1～3 節）

1. 1 節

Rev 7:1 この後、私は見た。四人の御使いが地の四隅に立って、地の四方の風を堅く押さえ、地にも海にもどんな木にも、吹きつけないようにしていた。

(1) 「この後、私は見た」

- ①物事の時間的流れではなく、ヨハネが見た幻の順番を示している。
- ②この幻は、神の裁きが迫っていることを示唆している。
- ③「地の四方の風」がそれを示している。大嵐が地上を襲おうとしている。

(2) 4 人の御使い

- ①彼らは、「地の四隅」に立っている。
 - *東西南北の位置に立っているということ。
- ②地の四方の風を堅く押さえるとは、北からも、南からも、東からも、西からも風が吹かないようにしているということ。
- ③神の裁きが起こるのを押しとどめている。
- ④天使は自然界を支配する役割を与えられている。
 - *火を支配する権威を持った御使い（黙 14 : 18）
 - *水をつかさどる御使い（黙 16 : 5）

2. 2～3 節

Rev 7:2 また私は見た。もうひとりの御使いが、生ける神の印を持って、日の出るほうから上って来た。彼は、地をも海をもそこなう権威を与えられた四人の御使いたちに、大声で叫んで言った。

Rev 7:3 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない。」

(1) 「もうひとりの御使い」

- ①生ける神の印とは、印章指輪であろう。
- ②日の出るほうから上って来たとは、東から上って来たという意味である。
- ③この天使を日出ずる国である「日本」と関連付けようとする人たちがいる。
 - *釈義上、なんの根拠もない。

(2) 「私たちが神のしもべたちの額に印を押してしまうまで、地にも海にも木にも害を与えてはいけない」

- ①この天使は 4 人の天使たちに大声で叫んで言う。
- ②神のしもべたちの額に印が押されるまでは、裁きを始めてはならない。
- ③額に印を押すとは、神の所有権と守りを示す。
 - *彼らは、伝道のために印を押される。

*彼らは、大患難の中で守られるために印を押される。

④額に印を押されるのが 144,000 人のユダヤ人である。

II. 144,000 人のユダヤ人 (4 節)

1. 4 節

Rev 7:4 それから私が、印を押された人々の数を聞くと、イスラエルの子孫のあらゆる部族の者が印を押されていて、十四万四千人であった。

(1) ヨハネは、印を押された人々の数を聞くと、144,000 人という数であった。

①イスラエル (ヤコブ) の子孫の 12 部族からの人数である。

(2) 144,000 人という数は、象徴的な数なのか、文字通りの数なのか。

①象徴的な数と解釈する人は、144,000 人を教会と考える。

②しかし、教会は大患難時代の前に携挙されている。

③さらに、12 部族を教会と同一視する聖書箇所は存在しない。

④12 部族、各部族から 12,000 人、合計 144,000 人。

⑤これは極めて具体的な数字であり、字義通りに解釈することが最も自然である。

⑥ちなみに、エホバの証人は、これを救われる人の数だと教えていた。

*信者の数がそれ以上になると、それまでの教理を変更した。

*144,000 人は天的救いを受ける人のことである。

*地上の楽園で永遠の命を貰えるその他大勢もいる。

(3) 紀元 70 年のエルサレム崩壊以降、ユダヤ人は自分の部族が分からなくなった。

①系図が破壊されたからである。

②しかし、神は知っておられる。

(4) 12 部族のリストに、エフライム族とダン族が登場しない。

①ヨセフからマナセ族とエフライム族が出た。

②このリストでは、マナセ族とヨセフ族となっている。

③ヨセフ族＝エフライム族なので、問題はない。

④しかし、ダン族の場合は、それを加えると 13 部族になる。

(5) ダン族が省略されている理由について、さまざまな意見がある。

①反キリストはダン族から出るから。

②ダン族は、偶像礼拝に走った最初の部族であるから。

③以上の見解は、あくまでも主観的な類推である。

(6) 私たちの見解

①旧新約聖書を通して見ると、イスラエルの部族のリストは 29 回出て来る。

②その中で、12 部族を越えたリストはひとつもない (J. B. Smith)。

③聖書の記述は、12 という数字にこだわっている。

④数を合わせるために、通常はレビ族が省かれる。祭司の部族。

⑤申 33 章のモーセの祝福のことば

＊レビ族が入り、シメオン族が省かれている。

⑥エゼ 47 章と 48 章の千年王国での相続地の描写

＊レビ族が省かれている。

⑦ダン族が省かれている理由は、数を 12 に合わせるためである。

(7) ちなみに、ダン族もまた、千年王国において土地を相続するようになる。

Eze 48:1 部族の名は次のとおりである。北の端からヘテロンの道を経てレボ・ハマテに至り、ハマテを経て北のほうへダマスコの境界のハツアル・エナンまで——東側から西側まで——これがダンの分である。

(8) 救われるユダヤ人は、144,000 人以上いる。

①144,000 人は、神の守りによって、大患難時代を生き延びるユダヤ人である。

＊彼らは、世界宣教に出て行く神のしもべたちである。

②それ以外の救われたユダヤ人は、殉教の死を遂げる。

Ⅲ. 12 部族 (5～8 節)

1. 5 節

Rev 7:5 ユダの部族で印を押された者が一万二千人、ルベンの部族で一万二千人、ガドの部族で一万二千人、

(1) ユダは、ヤコブの 4 番目の息子で、母はレアである。

(2) ルベンは、ヤコブの長男で、母はレアである。

(3) ガドは、ヤコブの 7 番目の息子で、母はジルパ（レアの女奴隷）である。

2. 6 節

Rev 7:6 アセルの部族で一万二千人、ナフタリの部族で一万二千人、マナセの部族で一万二千人、

- (1) アセルは、ヤコブの 8 番目の息子で、母はジルパである。
- (2) ナフタリは、ヤコブの 5 番目の息子で、母はビルハ（ラケルの女奴隷）である。
- (3) マナセは、エジプトで生まれたヨセフの長子である。

3. 7 節

Rev 7:7 シメオンの部族で一万二千人、レビの部族で一万二千人、イッサカルの部族で一万二千人、

- (1) シメオンは、ヤコブの 2 番目の息子で、母はレアである。
- (2) レビは、ヤコブの 3 番目の息子で、母はレアである。
- (3) イッサカルは、ヤコブの 9 番目の息子で、母はレアである。

4. 8 節

Rev 7:8 ゼブルンの部族で一万二千人、ヨセフの部族で一万二千人、ベニヤミンの部族で一万二千人、印を押された者がいた。

- (1) ゼブルンは、ヤコブの 10 番目の息子で、母はレアである（6 番目の息子）。
- (2) ヨセフは、ヤコブの 11 番目の息子で、母はラケルである（最初の息子）。
- (3) ベニヤミンは、ヤコブの 12 番目の息子で、母はラケルである（2 番目の息子）。

結論：

1. 大患難時代における聖霊の働き

- (1) 大患難時代においても人が救われるのは、聖霊の働きがあるからである。
 - ①救いの構造は、不変である。信仰と恵みによって救われる。
 - ②罪人に救いを与えるのは、聖霊である。
- (2) 教会の携挙と同時に、聖霊も地から上げられた。
 - ①ペンテコステの日に聖霊が降臨した。
 - ②携挙と同時に、聖霊が地から上げられた。
 - ③大患難時代における聖霊の働きは、ペンテコステ以前のそれと同じである。
 - ④ペンテコステ以前にも人は救われていた。
 - ⑤大患難時代においても人が救われることは、疑う余地のないことである。

2. ご自身の民に対する神の守り

- (1) 人類の歴史を通して、神はご自身の民を守って来られた。
 - ①エノクは生きたまま天に上げられた（創 5：24）。

- ②ノアとその家族は、箱舟に入り大洪水から守られた (創 7 章、8 章)。
- ③ロトは、ソドムに裁きが下る前にそこから取り出された (創 19 章)。
- ④イスラエル人の初子は、子羊の血によって裁きから守られた (出 12 章)。
- ⑤2 人のスパイは守られ、ラハブもエリコが崩壊する日に守られた (ヨシ 2 章、6 章)。
- ⑥大患難時代においては、144,000 人のユダヤ人たちが守られる。

(2) イスラエルの残れる者という概念

- ①預言者エリヤの時代に、神は 7,000 人の忠実な信者を残しておられた。

1Ki 19:18 しかし、わたしはイスラエルの中に七千人を残しておく。これらの者はみな、バアルにひざをかがめず、バアルに口づけしなかった者である。」

- ②現代のイスラエルの残れる者は、メシアニック・ジューたちである。
- ③大患難時代のイスラエルの残れる者は、144,000 人のユダヤ人たちである。
 - *イスラエルの本来の使命は、諸国の民を祝福することである。
 - *彼らは、イエスを拒否した時から、この使命を放棄した。
 - *大患難時代に、144,000 人のユダヤ人たちは、この使命に立ち返る。
- ④神の御心は、必ず成就する。